



いくせい通信

# Smile up!

～迷走する子どもとのかかわり方～

2025.03.07

No.12

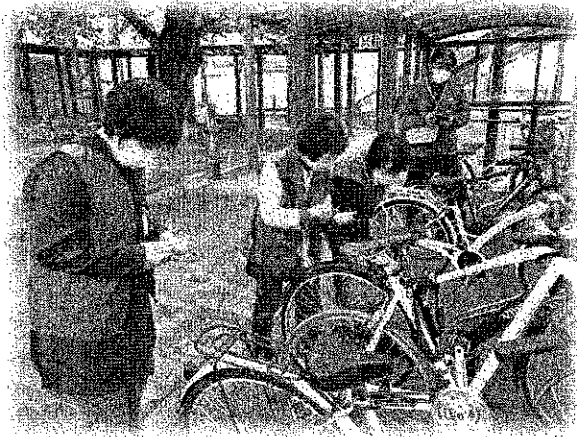
酒田市青少年指導センター  
酒田中央西町2-5-9  
TEL 0234-24-2901

## 1年間、ありがとうございました

いろいろあった令和6年度も、もうすぐ終わろうとしています。メジャーリーガーの大谷選手の大活躍を毎日のように目にし元気づけられた方もいれば、豪雨災害に見舞われいまだ大変なご苦労をされている方もいらっしゃると思います。令和7年度がみなさまにとって、そして日本や世界の人々にとって、平和で笑顔あふれる1年となることを祈るばかりです。

今年度、**青少協推進員**でがんばっていただいたみなさま、ほんとうにありがとうございました。子どもまつりやボードゲーム研修会をはじめとする各種研修会への参加、そして、定例会で見せてくださった地域の子もたちへの熱い思い…新しい試みにも賛同し、積極的に協力してくださいました。任期はもう1年ありますが、次年度もよろしく願いいたします。

また、特に街頭指導でお世話になりました**民生委員、更生保護女性会、保護司会、警友会、少年補導員**のみなさま、お忙しい中ご協力いただきほんとうにありがとうございました。また機会がありましたら、よろしく願いいたします。



## 迷走する子どもとのかかわり方

今回は、乳幼児の養育が“スマホ頼り”になり、有機的な子どもとのかかわり(アタッチメント)が不足していることをお伝えしました。そのことが元で、子どもたちに悪い影響が出ていることもお伝えしました。でも、今の親が悪いとかいうのではなく、そうせざるを得ない状況があったり、ほんとうに毎日の生活に追われ、仕方なくそうしていたり、ましてや昔の

ように「子育てのモデル」が近くにいるわけでもないので、現代の親はなかなか大変なのです。ですから、スマホに育児を頼る場面があっても、子どもへ何かしら影響が出てしまう可能性があることを知りながらであってほしいと思うのです。

ちょっと心配な子育ては、小中学生を持つ親(というか親すべて)にも当然あります。もちろんスマホや動画に頼ってしまうということもあるのですが、子どもが

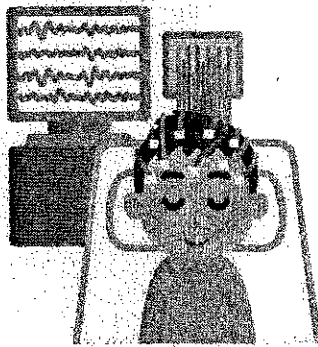


成長し言葉を理解して行動できるようになってくると、親はどうしても「言葉で」「物で」「力で」「恐怖心で」操ろうとしてしまうようです。

子どもを「力」や「恐怖心」でコントロールしようとするのは「虐待」や「マルトリートメント」に繋がります。親が子どもの教育のために良かれと思って、口うるさく指示したり禁止したりして悲劇を招く「教育虐待」ということもあります。みなさんもお存じかと思いますが、令和5年3月、佐賀県鳥栖市

で教育虐待が原因で起きた両親殺害の事件は記憶に新しいと思います。

右の図のように、出口保行氏(「犯罪心理学者は見た 危ない子育て(SB新書)」によれば、これらの子育ては「高圧型」に属します。支配や拒否によって親の思う通りに行動させようとしてしまうと、子どもは主体的に考えて行動したり何かを達成したりしようという意欲がなくなります。結果、自己肯定感が低くなり、これがひどければ非行や犯罪に走ってしまう子どもになってしまうらしいのです。

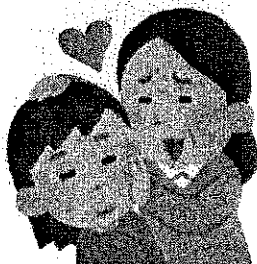


このような高圧的は虐待や不適切な養育(マルトリートメント)に遭うと、子どもの脳が委縮したり変形したりして、重大な病気や症状を引き起こすという研究もあります(「子どもの脳を傷つける親たち(友田明美著：NHK 出版新書)」)。

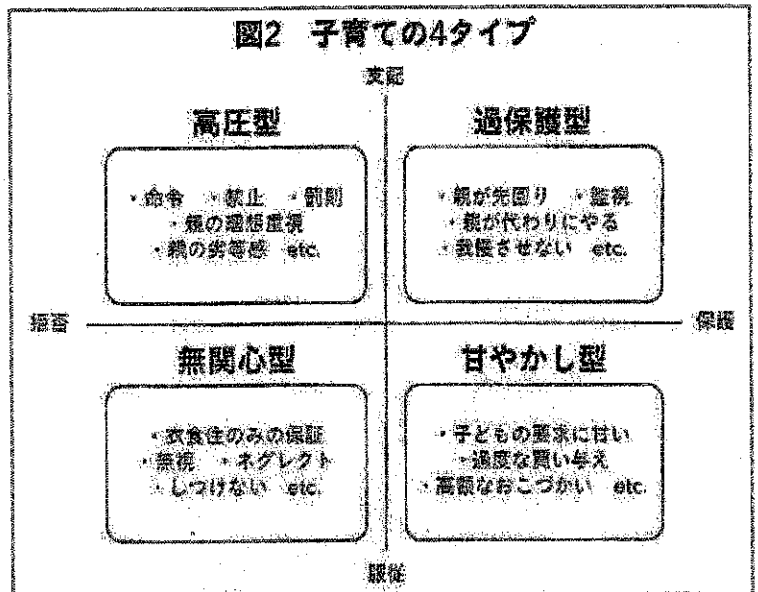
しかし多くの親は、大きな声を出したり暴力的な言動で子どもをコントロールするというよりも、子どもを「ほめる」ことを重視しているのではないのでしょうか。

## ほめて育てているから大丈夫!?

確かに「ほめる」ことは重要です。われわれ大人だって、叱咤激励がいい時もありますが、どちらかというともめられて気持ちよく仕事した方がいいと感じてらっしゃる方が多いと思います。ただ、ほめることで子どもをコントロールしようとする、子どもが依存的になっ

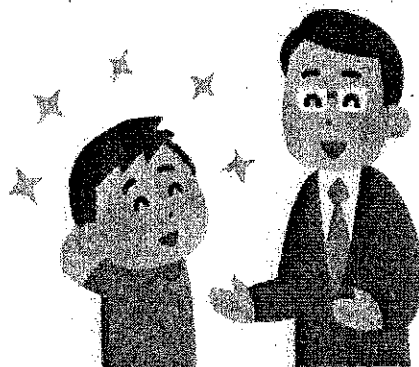


たり打算的になったりしてしまうようです。アドラーもアメとムチのアメに相当する賞を与えることやほめることには批判的です。ましてほめておだてて子どもを操縦しようとか、子どもの機嫌を取ろうとかしてしまえば、子どもは自分のことを現実以上の存在と勘違いをしてしまおうし、「ほめられ中毒」「ほめられ依存」になってしまうようです。



表①:「犯罪心理学者は見た 危ない子育て(出口保行著 SB新書)」より引用

このほめ過ぎの親は、左の表①の中の「過保護型」「甘やかし型」の親に入ると思います。子どもに良かれと勝手に思い込み、親が先回りして何でもかんでも決めてしまう過保護・過干渉は、子どもをダメにしてしまいます。先回りする様子から“カーリングペアレント”とか、上から常に監視して指示・命令しようとする姿から“ヘリコプターペアレント”と呼ばれているみたいです。そういう親は、子どもを過度にほめたりおだてたりしながらコントロールしようとしています。これでは主体性が育たないばかりか、依存的、いやそれ以上の自己中心的な子どもになりかねません。



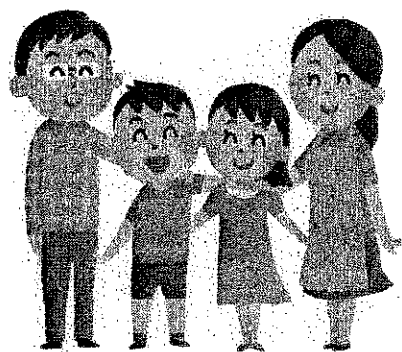
### 子どもに嫌われたくない親

また、最近多いと感じるのが「子どもに嫌われたくない親」です。子どもとの距離感がわからない親は、子どもにゴマを擦るような言動をしたり、友だちとの付き合いのように一緒にスナックへ連れて行ったり、デートと称して一緒に行動したりするようです。そんな親は、子どもの機嫌を取るために「物」で、あるいは「ほめる」こと

で子どもから好かれようとしたりコントロールしたりすることが多いと言われています。当然ですが、本当は叱ったり言い聞かせたりしなければならない場面でも、甘やかしたりあっさり許したりして、子どもに強く当たらないようにしてしまいます。この傾向が極端に強いと、わが子に非があるような問題行動でも、親が子どもを庇い問題をすり替えたり、別の誰かのせいにしてしまう場合もあるようです。今、学校で困っているクレマーというかモンスターペアレントは、こんな“子どもに嫌われたくない親”で、青少協だよりNo.7で紹介した「三匹のおっさん」(有川浩著 文春文庫)の話に出てくる親が多いようですね。

### 完璧な子育てなどない

世間には「〇〇式子育て」や「3人の子を超有名大学に入れた子育て」など、さまざまな子育て本がありますし、ネット上にも子どもの養育に関するサイトがたくさんあります。どれが正解かなんてないように、出口氏のいう4つの子育てタイプのどれが一番危ないということもありません。というより、おそらくある時期は「甘やかし型」を行ったりきたり、そして



「高圧型」になったり「過保護型」をかじったり…。バランスが取れた偏らない子育てをしている親なんて現実にはいないと思います。極端に偏らなければいいと思って大丈夫のようです。大事なのは、時々自分の子育てをふり返り「子どもに良かれと思っていることが、子どもの成長を阻害していないか、子どもを苦しめていないか」考えてみることです。「今、わが子は『自立』に向け歩んでいるか」ときどき自問自答してみることが大切だと思います。

私たち青少年指導センターが、みなさんの子育てのお役に立てればうれしいです。

## 子ども家庭庁より「オンラインゲームの注意喚起」が届きました。情報共有させていただきます



令和7年2月20日  
警察庁生活安全企画課

### 「海外で儲かる仕事」は危険です！

オンラインゲームやインターネット等で知り合った面識もない知人から海外で儲かる仕事を誘われ、海外渡航した結果、脅迫・監禁され、犯罪に加担させられる事案が発生しています。

犯罪組織は、あなたの知人等を介して、偽の仕事内容を説明したり、航空券を送って渡航費を負担するなどして、あなたをおびき寄せますが、実際に海外へ渡航すると、更に国境を越えて、思いもよらない地域に連れて行かれるなどして、特殊詐欺等の犯罪に加担することを強制されます。

報酬が支払われないどころか、脅迫・監禁されて逃げられなくなり、家族や警察に助けを求めることすらできなくなってしまう恐れがあります。殺されてもおかしくありません。

たとえ知人からの紹介であっても、内容に合わない高額な報酬が提示されるなど、少しでも怪しいと思う仕事には、一切応じないでください。

実際に海外の仕事を紹介され、警察に相談がなされた事例を紹介します。

#### ～海外の仕事を紹介され、渡航してしまった事例～

- オンラインゲーム上で知り合った人から海外の仕事を紹介され、タイへ渡航後、ミャンマーへ密入国させられた。そして、マシンガンで武装した者が監視する建物に連れて行かれ、詐欺をさせられた。
- インターネット上で知り合った人から海外での仕事を紹介され、タイへ渡航後、ミャンマーへ密入国させられた。ノルマを課され、出来なければマシンガンで暴行される環境下で詐欺をさせられた。
- 知人への借金返済に頼っていたところ、知人の関係者から、借金返済のために海外の仕事を紹介された。カンボジアへ渡航後、詐欺をさせられた上、軟禁された。
- 知人から海外の仕事を紹介され、中国へ渡航すると、詐欺をするように言われた。帰国したいと言うと、暴力団の名前を使って脅された。領事館へ助けを求め、保護された。
- 知人から海外の仕事を紹介され、はじめはカンボジアに渡航し、偽の仕事について説明を受けた。そして、ベトナムに行くよう指示され、渡航後、詐欺をするよう言われたため、逃げてきた。

#### ～海外の仕事を紹介されたが、渡航しなかった事例～

- 海外在住の知人に、海外で仕事をしないかと誘われ、個人情報を見せてしまったが、マレーシア行きのチケットの写真が送られてきたことで怖くなり、警察に相談した。

「海外で儲かる仕事」を紹介されても、渡航前に思い止まって警察に相談することが「あなた」や家族を救うこととなります。警察は相談を受けた「あなた」や「あなたの家族」を確実に保護します。

**一刻も早く「#9110」に電話して警察に相談してください。**